

**令和元年度 内灘町地球温暖化対策地域協議会
議事録**

日 時 令和2年2月20日（木）
午前10時00分から午前11時30分

場 所 内灘町役場 4階 406会議室

出席者 ・ 委員 新会長、荒木副会長、西田委員、北角委員、源代委員
一枚田委員、河崎委員（代理 小泉氏）
中川委員、堀川委員 計9名
欠席 北川委員、坂下委員、中委員

・ 事務局 上島町民福祉部長、福島住民課長
川本課長補佐、甲野主事

委嘱状の交付（任期：令和2年2月26日～令和4年2月25日）

町長挨拶

会長、副会長の選任

○会長 新 広昭氏

○副会長 荒木 真由美氏

会長挨拶

協議事項

- ① 内灘町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）進捗状況報告について（平成30年度）
- ② 内灘町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）進捗状況報告について（平成28年度）
- ③ 令和元年度環境関連予算及び取組み状況について

委員から出された主な意見の概要

事務事業編について

会 長：電気からの温室効果ガス排出量が増加しているのは、電気使用量が増加しているからか。やはり施設のエアコンが原因なのか。

事務局：夏暑くて、冬寒い、という年度が続いているので、なかなか電気使用量は下がらない。

会 長：町内の小学校では、エアコンの導入は終了しているのか。

委 員：今回は平成30年度の結果になるので、エアコンが導入されているのは、白帆台小学校と中学校のみだが、平成31年度には全小学校にエアコンを導入し、冷暖房で使っているため、平成31年度の電気使用量は平成30年度を上回ると予想される。

委 員：中学校の重油使用量が減少しているのはなぜか。

委 員：中学校ではエアコンが導入されている。エアコン暖房は冷房よりも電気代がかかる。そのため、朝の寒い時間帯は、A重油でボイラーを焚いて温度を上げ、教室が温まったら、ボイラーを切ってエアコンにする取組みをしている。

委 員：鶴ヶ丘小学校の温室効果ガス排出量が多いのはなぜか。

委 員：鶴ヶ丘小学校は蓄熱暖房を使用している。設備が古いため、効率は低下している。

区域施策編について

委 員：区域施策編のまとめについて、町民の理解や協力が得られるように努めていく、とあるが、具体案はあるか。

委 員：公民館に県地域版ISOの認定を薦める。地球温暖化に関する啓発講座を企画したいと考えている。

委 員：家庭部門での電気の温室効果ガス排出量の割合が多いのはなぜか。人口の増減はさほどないはずだ。節電意識も昔に比べて高くなっていると思うが。

会 長：家電製品単体のエネルギー効率は改善されているものの、1世帯が保有する家電の全体数が増えているため、温室効果ガス排出量の割合が多くなっていることが理由に挙げられる。

委 員：原子力発電が停止していることもあり、排出係数が高くなっていることも原因の一つである。

会 長：北陸のように夏暑くて、冬寒い地域では、断熱の機能がさほどない家が多い。今後はこまめな切電も必要だが、断熱をしっかりとした、「エコハウス化」が大事である。省エネのリフォームをすると、家の寿命も延びる。そういったことを啓発していくことも大切である。

その他

会 長：県が行っている取り組みを活用すれば、効率的だと思う。県の取り組みについて、何かあるか。

委 員：ISOについては、家庭版、地域版、事業者版、学校版、保育園、幼稚園がある。地域版 ISO については、主事が勤務している公民館には積極的に認定してもらいたい。家庭版 ISO では、来年度からはスマートフォン使って取り組めるよう検討しているところだ。レジ袋について、全国で7月から有料化が義務化される。石川県では平成 21 年度から有料化され、およそ 1 2 億枚のレジ袋が削減されている。引き続き、プラスチックごみ削減に取り組みたい。